

2020（令和2）年度事業計画

本学は、大学の理念・目的・教育研究活動におけるビジョンを実現するため、2018年5月、第3次中期マスタープラン「大正大学魅力化構想7ヵ年総合戦略」を策定しました。このマスタープランは、本学が創立100年を迎える2026年を見据えた中期的な目標を定めた計画であり、「大正大学100年、魅力化構想とそれを実現するための働き方改革」と名付けました（以下「魅力化」といいます）。

本年2020年度は、本学にとって魅力化元年と言える年であります。

この計画は、本学が社会に約束（発信）したものであり、この約束に期待をして本学に入学する学生に対して、約束を実行することが信頼につながり、満足度の向上となります。この結果、社会的評価を受けて、オンリーワン（スマートユニバーシティ）ブランドの獲得を目指します。

魅力化は、MIGs*1（魅力化イノベーションゴールズ、ムーンショットイノベーションゴールズ）の目標を実現することによって達成されます。また、2026年を見据えたMIGs2026の取り組み（以下「MIGsアジェンダ2026*2」といいます。）は、全学的な取り組みとして、通常の大学運営とともに、全部署が関わるものとなります。学長のリーダーシップのもと、教職員一丸となってMIGsアジェンダ2026を推進していきます。

本学は、戦略的予算配分方針を決定し、第3次中期マスタープラン及びMIGs2026に基づき、以下に掲げる諸事業をこの一年間着実に展開していきます。

■2020年度 大正大学魅力化事業と予算配分

(1) 魅力化事業の予算

魅力化事業の予算は、第3次中期マスタープランMIGsアジェンダ2026を事業化するため、2020年から2026年までの間、総額50億円を計上します。(予算計上額は年度毎に6億円を上限とし、総計42億円、残り8億円は「MIGs魅力化基金」)に組み入れ、留保しながら、必要な事業に対処します。)

(2) 魅力化事業経費

魅力化事業経費は予算書上、経常経費とは別枠で計上します。この形式は付加価値を創出するための予算として2019年度補正予算から導入しています。

(3) 魅力化予算捻出の担保(根拠)

2018年度決算時(2019年5月)の教育活動収支決算額を基準(持続可能な経常的教育活動を保証できうる収支状況)とし、さらに決算時の特定資産、流動資産(7,376百万円)を留保した上で、(1)の特別会計型、魅力化予算を計上します。

■2020年度 事業計画

上記方針に基づき、2020年度に以下の取り組みを推進します。

(1) 「DAC(ダイバーシティ・エージェンシー・コミュニティ*3)」ー総合学修支援機構の本格稼働ー

総合学修支援機構DACは、大学の初年次教育(主に第I類科目)時に、革新的サポートによって生涯学び続けることができる能力・資質と習慣を身につけるために2019年10月に設置しました。DACの主な取り組みは以下となります。

①e-ポートフォリオ

学修成果の可視化を目的として、e-ポートフォリオ*4を2019年度に開発しました。2020年度においては、第I類科目において実証実験期間とし、特に社会創造系3学部の1年生に対して、「学びと成長の記録」として可視化を実現します。なお、2021年度以降、全学対応とし、第II類科目(専門教育科目)に順次対応していく予定です。

②チュートリアル教育

チュートリアル教育*5を(初年度は主に社会創造系3学部第I類科目に集中して)実施するために2019年度から総合学修支援機構DACを設置しています。専任教員6名、コアチューター6名の採用に加えて、クラスチューター(非常勤)50名を採用し、チュートリアル教育をスタートします。

(2) 「すがもプロジェクト」ーすがもオールキャンパス構想の実現ー

2017年度から準備を始めたすがもオールキャンパス構想を実現するため、「すがもプロジェクト」を魅力化構想の中核事業として位置付け、2020年度から本格的に稼働し、以下の取り組みを推進します。

①歩こう「すがも」－学生が街を歩くことで、巣鴨に新しい若者文化を創生する－

巣鴨駅から本学まで歩く登校者数 500 名（巣鴨駅までの定期購入者）を目標にして、実践者にインセンティブを用意（定期代に使えるポイント、まちなか学食で使えるポイントなど）します。

②学ぼう「すがも」－キャンパスにとって必須であるサテライト教室を街中に設置－

すがもオールキャンパスを推進するために、5つの教室等を街中に設置し、巣鴨の街中で学生が授業を受講し、地域創生、公共政策、フィールドワーク等の学修を地域と協働で行います。

【すがもオールキャンパスにおける教室等】

(a) 1号教室 地蔵通り仲見世地域

社会創造系ワークショップ、リカレントカレッジ、すがも人生 100 年塾など年間 100 コマを開催します。

(b) 2号教室 座・ガモール京都店 2階

仏教学科国際教養コース等のワークショップを実施します。

(c) 3号教室 庚申塚

地域、商品開発、マーケティングを展開します。

(d) 4号教室 地蔵通り商店街事務所 2階（交渉中）

(e) 5号教室 真性寺（交渉中）

(f) その他 臨時施設として、豊島区等の公共施設

(g) スペシャル （一社）座・ガモール

学生インターンシップを実施します。

③交わろう「すがも」

本学は地元巣鴨地域への地域貢献として、巣鴨キャンパスを会場とした地域フェスタ、盆踊り、水曜礼拝等を毎年実施しています。これらの取り組みをより強化し、巣鴨地域の活性化と地学連携を推進します。

(a) 太鼓、すがも「鼓友」、大正大学「鼓鴨」、佐渡「鼓童」の交流

(b) 盆踊り、菊まつり等のイベントの共催

(c) 宗教文化施設「さざえ堂」のパワースポット化推進

なお、以下の組織が連携・協働して「すがもプロジェクト」を推進します。

【連携・協働組織】

(a) MIGs アジェンダ 2026 すがもプロジェクト（教職協働）

(b) 地域構想研究所

(c) (株) ティー・マップ、(株) DAC イノベーション

(d) (一社) コンソーシアムすがも花街道（3商店街）

(e) 東京都豊島区

(f) 巣鴨地区町会

(g)学生プロジェクトスタッフ

(3) スマートユニバーシティ構想（情報基盤整備と情報発信）

スマートユニバーシティ構想はテクノロジーの活用によって、大学教育環境の全体最適化を目指し、魅力化構想を実現する取り組みを実施します。

①情報基盤整備については、2019年度のWi-fi環境の拡充からスタートしました。2020年度はソフトバンクと本格的にパートナーシップ協定を結び、以下の教育・学修環境を整備します。

(a)総合学修支援のためのeポートフォリオ活用

(b)Cloud Campusによるメディア授業の拡大

(c)テレビ会議システムを活用した授業支援や業務推進

(d)学生のワンストップサービスのための学生証アプリや統合認証システムの導入（2020年度より順次導入・利用拡大）

(e)Yahoo!が提供するビックデータ（DS.INSIGHT）の教育・研究活用

(f)デジタルサイネージ（3・5・7・8号館）による情報発信

(g)すがもオールキャンパスでの活用するモバイル内線の導入

②大学情報の一元管理を推進し、戦略的な情報発信力（広報）を高め、大学ブランディングを向上します。そのために、2020年度から以下の取り組みを実施します。

(a)大正大学のアーカイブを制作、大学の100年の記録（文書、映像など）のデータベース化に着手します。

(b)大学の活動をデジタル化し、検索や蓄積が容易にできるようなソフトウェアを開発し、すべての教職員やステークホルダーが利用できるようにします。

(4) 戦略的広報活動

大学ブランディング向上を目的とした戦略的広報活動を以下のとおり実施します。

①旧来型の紙媒体中心から学生募集広報をwebに転換します。そのために、東北新社の協力を得て、動画、写真等を多用し、QRコードによって様々な大学情報にアクセスできるシステムを開発します。

②7月23日に新宿住友ビルイベント会場で、スマートユニバーシティ構想の記者発表をソフトバンクと共同で実施します。

③東北新社による大正大学イメージ動画を年度内に制作、発表します。

④MIGs アジェンダ2026の周知活動を行うため、各種メディアに情報発信活動を強化します。そのため、学校法人主導で新たな広報戦略会議を設置し、情報発信の拠点として機能させます。

(5) 地域戦略（プロジェクト）

本学は地域構想研究所の開設と地域創生学部の設置を契機に、大学の機能強化の特色を「地域人財育成」に置き、『地域人主義』（基盤を担う人）という理念のもと、地域戦略プロジェクトを推進しています。地域に根差した「地域人財育成」は本学の建学の理念と合致するものです。また、2020年度に開設する社会共生学部は受験生も多数集まり、本学が掲げる「地域人主義」の運動に共感する層に厚みが増加しています。2020年度には、以下の取り組みを推進します。

①地域構想研究所の広域地域自治体連携活動を拡大し、共創ネットワーク型の活動を可能とするプラットフォーム構築を目指します。

②地域に大正大学が関わる多様な拠点（地構研支局、事業法人団体等）を拡充、人財育成、ビジネス創出、地域交流の活発化を支援します。

③地構研プロジェクト研究

2020年度は既存の研究プロジェクトに加えて、社会実装を伴う下記の新規の取り組みを実施します。

(a)防災・減災・復興研究プロジェクト

- ・支え合いの防災ネットワーク構築
- ・新たな東北復興支援活動の構築（南三陸研修センター）

(b)地域と共同した商品開発プロジェクト

地構研の研究費と外部識者や専門家等の協力を得てチームを編成。連携自治体の地域生産者・事業者と共同で実施。

(c)新たな拠点整備として、淡路市に民間の事業所を借用した地構研関西支局を開設します。加えて、本学学生の地域実習、フィールドワークの拠点を形成します。

(d)外部資金（各省庁、民間団体）の獲得を積極的に実施し、専門担当者を設置します。5件の外部資金の採択を目標とします。加えて、地域構想研究所からの科研費申請を促進します。

(e)地域の寺院経営の在り方について研究活動を強化します。

(6) 大正大学 100 年魅力化基金の設立（大正大学 MIGs アジェンダ 2026）

大正大学魅力化イノベーションゴールズ、大正大学ムーンショットイノベーションゴールズの理念の下、大正大学 MIGs アジェンダ 2026 の目標を達成するために、現行で実施している「地域人財育成基金」を「魅力化基金」として再編し、募金活動を推進します。

①募集期間：2020年4月～2026年10月（6年7か月）

②目標金額：6億3千万円（現 333,184,536 円：2020年3月26日現在）

※1年目の目標額 5000万円

③募集単位：一口 10,000 円 ※鴨台会、父母会

(7) 革新的国際化への取り組みについて

本学の国際交流、国際教育のあり方について検討するために、教職協働のプロジェクトを設置しま

す。2020年度中に調査活動を実施し、2021年3月に報告書を取りまとめます。現行の語学研修型、短期プログラム型の留学の在り方を見直し、国際貢献を通じて学生が参加できるもの（NGO等）や国際共益団体、海外企業などでのインターンシップなど連携大学との交流に捉われない新たなプログラム開発を開発します。

以上

- *1 本学の取り組みや独自の主張（オリジナル性）を実現するため、SDGsから援用したものであり、本学が掲げるMIGsは、「新共生主義」、「新地域主義」を中核に掲げています。MIGsは、「大正大学の未来と魅力化【M】は、私（達）の手によって創り出したい大学の目標を立てイノベーション【I】による創造的革新を実行し、多様な目標課題を解決【Gs】することによって大学の魅力化を完成します。【M】はムーンショットとして、大学が掲げる大きな挑戦やイノベーション的目標」を意味します。
- *2 プロジェクト8として、「情報基盤、働き方改革、戦略的経営・財務・広報、地域戦略、すかもプロジェクトA（教育）、すかもプロジェクトB（まちづくり）、DAC、大学院改革、就職」の項目を掲げ、内容・アクションプラン・スケジュール・KGIを設定し、教職協働による全学的なプロジェクトを令和元年度より推進している。
- *3 DAC（ダイバーシティ・エージェンシー・コミュニティ）
ダイバーシティ・エージェンシー・コミュニティ（Diversity Agency Community）という学生・教員・職員・チューター・地域・企業など多様な立場の人々が協働して学ぶコミュニティとしての役割と、ダイバーシティ・アライアンス・センター（Diversity Alliance Center）という地域・企業・大学との連携による多様な環境で学ぶセンターとしての役割を意味します。
- *4 e-ポートフォリオ
学生の学修活動等を情報システム上に蓄積・保管するもので、何を学んだかどうか教員やチューターが判断できるもの。また、学生は自身が学んできた振り返りに活用することができる。
- *5 チュートリアル教育
すべての学生が生涯を通じて学び成長し続けるためにチューターを配置して行われる少人数教育。チューターとは、学生一人ひとりの学びと成長を支える総合学修支援者のことで、授業内で学生のフォロー、授業時間外の学生の学修に対するアドバイス、学生への質問対応などを行います。チューターは、育成採用型とし、必要な講座を受け、短期の実技演習とインターンシップを修了した方を大正大学のチューターとして採用します。